

「別府“温泉”大学」とは？



別府大学地域社会研究センター
所長 篠藤 明德

別府大学は、世界的温泉郷である別府市に立地し、キャンパス内に4つの泉源、天然温泉が8つあるという特別な大学です。そのような特色を持つ別府大学は、昨年度より「別府“温泉”大学」として広報をしています。本号ではその特集を行います。

一遍上人と鉄輪温泉

まず、別府温泉郷は、日本の温泉の歴史を語る上で特筆されるものです。伊予国風土記に道後温泉は速水の湯（別府温泉）から海底を通過して引いたものとの記述があります。また、豊後国風土記には、血の池地獄の記述もあります。鎌倉時代、伊予国の奥道後から出た宗教家・一遍上人が別府に上陸し、地獄を鎮められ、鉄輪温泉郷が拓かれた、と言われています。こうした歴史的背景を飯沼賢司学長が講演しました。

次に、その歴史や現在の鉄輪温泉郷を盛り上げている3人の女性との座談会が続きます。

また、キャンパス内の温泉を案内しながら、泉源4つと天然温泉の湯を紹介します。

公開授業「温泉学概論」

別府大学は、このような温泉に恵まれた大学ですが、既に10年以上にわたって「温泉学概論」を開講し、一般の人々も受講できる公開授業としてきました。「温泉学」は、飯沼学長が提唱してきた環境歴史学の考えから出発したのですが、その内容は毎回多彩です。その中から、本号では4つの授業を紹介します。

温泉は自然の恵みですが、由佐悠紀・京都大学名誉教授は、別府温泉郷の泉源等を地球物理学の観点で講義されました。京都大学は、別府市に地

球熱学研究所を設置していますが、由佐教授は、同研究所の所長を務められてきました。

阿部博之教授は、再生エネルギーの研究者ですが、大分県の地熱発電についても著書を著しています。上野淳也教授は、大学の近隣に所在する鬼の岩屋古墳の赤色塗料は、血の池地獄から採取されたものであることを明らかにします。塩屋幸樹准教授は、これまで発酵食品の分野で、温泉を使った商品開発を学生とともに取り組み、地域社会の活性化を図ってきました。「温泉学概論」の講義のいくつかは、オンラインでも見ることができます。

別府“温泉”大学の開学

21世紀は、自然環境とともに癒しを求める時代と言われています。温泉は、日本では日常のありふれたものと感じられますが、世界的にみると、決してどこにでも存在するものではありません。ごく限られた地域にしか存在していません。その意味で、日本最大の温泉郷である別府に立地し、キャンパス内にも天然温泉を有する別府大学は、この地の恵みを守り、その意義を広く社会に知らせる使命を持っています。これが、別府“温泉”大学の開学宣言です。この小冊子が、人と温泉が織りなしてきた、世界的に稀有な“別府温泉郷”の扉を開き、皆様方を誘うことを期待しています。